



写真 地盤の液状化で浮き上がったマンホール



写真 鉄板巻きコンクリートで予め補強してあった高架橋の橋脚

今度は三陸の大津波です。三陸の大津波というのは、今から110年前に起こったのですが、一晩で2万2千人死んでいます。こんなにたくさん死んでいるのに、日本中みんな忘れてしまって、津波のことなんて考えていない。この間、高知県の市町村長全部集めるからやってくれというので、この話をしにいったけれども、本当に対策を打っている市町村は一つもなかった。本当に津波の事を考えて、住民の教育と対策を打って本当にやっているかと聞いたら、そんなの国がやることだとみんなが思っているのです、だけど、そんな事を言っているうちに死ぬぞというのがこの例です。

これは、田老町と言っている所です。高さが15メートルの津波が来る前の写真です。そして、1600人くらいが流されます。ちょっと山の方にいた人たちが生き延びるのですが、よく見ててください。これは、15メートルの津波が来る前の写真です。津波襲来後はほとんどが水に浸かってしまいます。何も無いのです。

化粧品なら「使用前」「使用后」って写真があるのに、何故、津波の時だけ「使用前」「使用后」がないのだと思っていたら、田老町はこの2枚の写真しかないのだそうです。それで頼んだらちゃんと焼いて送ってくれたので、ご紹介できました。こういう事が一番、一目瞭然ですよ、「使用前」「使用后」。そうすると何もしなければこうなるのです。ところがこの人たちはすごくて、生き残った人たちは貯金をして、自分たちで防潮堤を造り出した。今でも公共工事でやっています。高さ10メートルくらいの防潮堤をしつこく造り続けている。やっぱり、こういう事をやるのが、国土の保全というか、安心・安全をつくるのだと思います。三陸を歩いて見ると、津波の来た高さ、その所に石碑があります。これを読んでみると「高き住居は児孫に和楽、想へ惨禍の大津浪、此処より下に家を建てるな」となっているのです。明治29年に、みんな死んでしまったのですよ、本当に。だけど、次の人が来て建てている。こうやらないと忘れるからです。

3.緊急時(国防)や災害に備えたインフラの整備

僕は、今のような事をいろいろ考えると、やらなければいけない事がいっぱいあると思うのです。特に、日本全体で考えた時にどうしても第二東名というのは、ものすごく急いで完成させなければいけないものだと言っています。普通の議論で、財政がどう、何がどうと言っているのは全然違って、あそこが崩れたら、もう日本は日本として立ちゆかないと思っていて、これを早く完成させる事を優先させるべきだと思っているのです。それで、たまにいろいろな面白い所へ行ったり見たりしているうちに見るチャンスがありましたので、この第二東名の富士川の端とトンネル、それから由比の所でどれくらい、これが危ないことかというのがわかりますから、お見せします。

これが、東海道の新幹線とそれから国道1号、それから東名の通っている所です。由比の所から静岡の辺りの所まで、全部細い海岸線なんてもんじゃない、海の中に突き出して、それを造るしかないのです。ここが日本のフォッサマグナ、日本がずれている所ですので、次の時必ずここから壊れる。それで第二東名の、由比の辺りの所で10キロか、15キロくらい内側の所に